心理学・社会心理学コースの教育と研究のコンセプト・新任教員に期待すること

１．教育目標

―日常のありふれた出来事を科学的で独自な視点から捉え直す力―

心理学・社会心理学コースでは，自己，他者，そして人間関係において生起する諸問題について，従来の研究成果や知見を基にして，科学的で独自な視点から分析できる人を育成することを目指しています。

特に，当コースにおいて重視する教育目標は，心理学の幅広い知識・技術を学ぶだけでなく，それらに基づいて，自ら研究を計画し，実験や調査を行い，データを収集・解析し，論文を作成する実証研究を実際に推進できる力を身につけることです。このことによって，ありふれた日常の出来事を自ら積極的に捉え直し，実際的な諸問題の問題解決に取り組む力を伸ばしたいと考えています。

また，公認心理師養成に関わる教育を通して，心理学の専門的知識や技能を実践的な課題に応用する力を養うことも，当コースの重要な教育上の役割の一つと位置づけています。

２．カリキュラムの構成

心理学・社会心理学コースのカリキュラムの第一の特色は，実験実習を重視する点です。実験や調査を自ら行う企画実行力を磨くために，実験実習形式の授業科目を段階的に配置しています。具体的には，2 年次の「心理学基礎実験」において基本的な実験を学生自らが体験し，3 年次の「心理学特殊実験」においては，各自が自ら研究テーマを設定し，実験や調査の企画・実施，データ分析，論文作成という一連の過程を経て，特殊実験論文としてまとめます。これをさらに，4 年次において卒業研究として発展させ，卒業論文を完成させます。これらの実験実習と論文の作成を通して，心理学の基本知識を生きた技術として身につけることができます。加えて，当コースでは公認心理師養成に必要な科目を配置し，心理学の専門的知識や技能を実践に結びつける教育を行っています。

３．新任教員に期待すること

- 公認心理師の養成に積極的に取り組み，心理演習・心理実習をはじめ，公認心理師養成に係る授業科目を担当するとともに，実習環境の充実に取り組むことができる。
- 学生相談・学生支援業務に積極的に取り組み，学内の関係部署や教職員等と連携・協働しながら，学生相談体制の充実・強化に寄与することができる。
- 臨床心理学を専門とし，実証的研究を行うことができ，それらに基づいて卒業研究を指導できる。
- 国際的な視座に立って，創造的で高度な研究を推進するとともに，学生教育に

強い意欲と情熱をもってのぞむことができる。

- 学部・コース運営に積極的に取り組むことができる。
- 個別の専門領域に固まらず，広い視点をもって，心理学・社会心理学コースの一員として，協同・協調した教育活動を展開できる。
- 地域貢献に理解と関心があり，地域に対する文化事業を積極的に推進できる。